

何でもいいんですけれども、そういったことがあったらぜひご連絡をいただけたらと思っています。

つたない話もありますし、時間もちょっとオーバーしてしまいましたが、ここで終わりにさせていただきますと思います。長時間ありがとうございました。(拍手)

【第3日】 11月9日 (金)

■全体会 第一部 (09:30～10:30) 12 F S 121

講演

「迫り来る！巨大地震。あなたは、あなたの局は、大丈夫？」

講師：福和 伸夫 氏

(名古屋大学 減災連携研究センター長)



福和 伸夫 氏

皆さん、おはようございます。2日間たくさん勉強されてきて、くたびれているかなと思いますが、最後に少しお付き合いください。

ここに書いてある絵を見て、皆さんは身近な危険をどのくらい感じられるでしょうか。ある意味、これはとても具合の悪い街です。この典型なのが東京ですが、ここに発電所があります。とても危険な場所にあります。液状化します。高潮や津波が来ます。一番よく揺れる埋立地です。そんなところに発電所をいっぱいつくっちゃいました。僕はゼネコンで働いていたんですが、原子力とか火力発電所とかの設計にも携わりましたけれども、原子力と火力の実力差は10倍ぐらいあると思います。火力は、原子力ほど耐震的ではありません。今回、福島原発の話がありましたが、原発が機能停止する前に火力発電所はひどい被害だったと思います。安全性は全く違います。でも、私たちの街のほとんどは火力発電所に頼っています。皆さんの放送局も、これがダメージを受けたら停波します。

昔はそうではありませんでした。水力発電所に依存してしていました。水力発電所は岩盤の上につくっていて、水さえ流れていれば電気が起こせました。今はタンカーが行けなければ電気を起こせません。

ガスも同じです。堤防は基本的に地震対策をしていませんでした。本来、水から守るものであって、地震で耐えられるようにはつくるものではありません。いまだに使っている堤防には、江戸時代につくった堤防だってあります。堤防は全部生きていない限り水が入ってきます。にもかかわらず、海拔ゼロメートル地帯に街を広げてしまいました。どこかが切れれば浸かるわけです。液状化すれば、水道管が破断し水が出ません。家が傾きます。道は走れません。だから消防自動車も役に立ちません。燃えるに任せるしかなくなるかもしれません。そんなところに住んだらダメです。また、こんな背の高い建物をつくっちゃダメです。とてもよく揺れます。普通に設計している建物なので、戸建て住宅と安全性は大きくは変わりません。ちょっと言いにくいんですが、コストダウンが至上命題になれば、大手設計事務所、

大手ゼネコンに頼むと、技術力が高いがゆえに、法律を守りつつお客様の要望を満足をするため、合理的な設計をします。合理的とは、建築基準法をギリギリで満足する建物を作ることかもしれません。だって皆さんは色々要求をするくせに安くつくれって言うんですから。お客さんは何て言うかという、この値段で一番大きな建物をつくって、一番早くつくって、一番便利な建物をつくって、設備も整えて見栄えもよくしてと、そんな要求をされるので何を削るかという、安全性を削るしかないわけです。その結果、技術力が高いほど、建築基準法ぎりぎりになるように一生懸命コストダウンするわけです。それが一番喜ばれるのですから。ただし、お客さんが安全性を重視されれば、持てる技術を使って徹底的に安全な建物を作ります。

そういう社会を今つくっていることに気がつくとも怖くなってきます。世で言うバリューエンジニアリングというのは、そういうものであります。バリューというのは、国民が持っている価値観です。皆さんが一番喜ばれるものをつくるのが今の時代なので、結果、極論するとさきほど申し上げたような社会になります。その結果こういった街は、揺れるとどうなるかという、こんなふうになります。

このことは1995年1月17日に私たちは学んだことであります。MBSさんはこのことをすごく感じて下さっていて、17年間ずっと『1・17』という素晴らしいラジオ番組をやってくださいました。でも17年たって、なくなってしまいました。MBSさん、何で『ネットワーク1・17』をやめちゃったんでしょうか。そんなことをしちゃダメです。(聞いておきます。)同僚の方々に怒っておいてください。東日本大震災が起きたのに、日本で一番大事な番組をつぶしちゃいました。風化って、そうやって始まっていくんです。

3・11で学んだことは、海辺は使っちゃいけない、それだけのことであります。津波が来たら何もなくなる。多分これから、日本中でこういう風景に出会うことになります。仙台を中心に1万9,000の方がお亡くなりになりました。地震の大きさはM9.0です。でも1万9,000人で済みました。理由は、地震が起きた場所が陸から離れていること、あまり多くの方が住んでいる場所ではなかったことであります。

今から90年ぐらい前、関東で地震が起きました。震源は東京からは少し離れていますけれども、東京を中心に10万人が命を落としました。それは軟らかい地盤のところにも人がたくさん住んでいたのが沢山の人が亡くなったということです。人はたくさん集まっちゃダメということを表しています。人がいっぱい集まっていて、火がついて、全部燃えちゃいました。それで10万人が命を落としました。1995年には、こんなに小さい地震なのに6,000人が命を落としました。街の直下で地震が起きたので、強烈な揺れで建物が壊れて、多くの方が命を落としました。

今、目の前にぶら下がっているのは黄色い部分(南海トラフ巨大地震)です。白で示した3つの地震から黄色で示した地震のことを考えるとどうなるか、推して知るべしです。住んでいる人の数は東北の10倍、まちのすぐ近くで起きるので、揺れている間に津波が来ちゃうかもしれません。

静岡から来ていらっしゃる方、お家はどこですか。(静岡市内です。)じゃあよかったですね。焼津や沼津だったら時間が足りないですもんね。駿河湾沿岸の海岸では、逃げるための時間が足りないんです。もうわかっていることなんです。そして神戸の地震と同じように住

んでいるところの真下で地震が起きますから、とても強い揺れになります。

震度7ですよ、(SBSの)柴さん、家は大丈夫ですか。(一応、建築基準法を…)基準法は震度6弱くらいしか面倒をみてくれません。ギリギリで作っていたら、震度7だったら事に壊れます、ある意味でちゃんとした設計だったら。一方で、下手な設計だと余裕があって震度7でも壊れないかもしれません。設計は下手くそなほうが計算で考えていない余力があって強い可能性があります。さっき申し上げましたよね、技術は我々何に使うかという、コストダウンのために、ぜい肉を落とすために使っている可能性があるわけです。

南海トラフ巨大地震の被害想定見直しで死者が何人になるかという数字が8月29日に出されて、32万人という数字が公表されました。でも、先ほどの話から考えると少なめのようにも感じます。だって、住民の意識の高い東北で1万9,000人、10倍住んでいれば20万人、夜だったら倍で40万人、もっと揺れるからさらに増える。津波もすぐ来るからもっと増えるなんて考えると、100万人だってあり得るかもしれません。いずれにせよ相当に幅のある数字です。

これはTBSさんでつくられた映像です。見てみると津波がどんなふうやってきたかということがよくわかります。防潮堤を超えた海の水が滝のように落ちてきた様子がわかります。何だか私たちが思っていた津波の様子とは違って、津波は滝のように落ちてきたんです。防潮堤を超えた後、たった1分後に、こんなすごい映像が撮られています。この映像を見て海辺を使っていいかどうかを考えてほうがいいと思います。外洋に面した海辺は使わない方がよいてわかります。とても僕たちが戦える相手ではありません。



今のような映像、写真に撮ってみるとこんな形になります。三陸海岸の様子です。同じような様子が今から158年前に絵として描かれていました。これは下田です。ロシアの戦艦ディアナ号に乗っていたモジャエスキーさんが描いた絵です。先ほどの映像と同じように、堤防を越えて滝のように津波が落ちて消える様子が見事に描かれています。

この絵とこの写真、よく似ていますが、違っている点が2つあります。1つは今の写真にはいっぱい家があるということです。昔の絵には家はありません。今は家だらけ、昔はあまり家がない。もう1つ違いがあります。昔の絵には人がいます。今の写真には1人もいません。一つは、岩手の方々は津波防災教育をしっかり受けていたから、もう一つは、津波が来るまでに30分以上時間があったから、ちゃんと逃げることができました。この2つの違いは大きなことで、我々、知識があるほど危ない世界に入っている可能性があること、それから、ちゃんと意識さえ高ければ逃げることができるということです。ただし、時間があればということが注釈としてつきます。この津波の動画を見ていただくとわかるように静岡では一瞬で津波が来ます。下田までで10分です。さっきの下田の絵は、津波は地震発生後15分だったようです。15分だったから、あの人はまだ逃げていなかった。でも沼津、焼津、

河津、津波の「津」がついている街は数分です。そこでさっきのような海辺の家に住んでいたとしたら、どうなるでしょうか。

国の出した被害想定結果 32 万人について、一生懸命耐震化して、さらにみんながすぐに逃げるように意識啓発をしたとしても 6 万人までしか減りませんでした。逃げる時間が足りない人がいるという意味です。住む場所を変える必要があるということになります。

東京湾と伊勢湾は、湾の入り口の格好を見ていただいてもわかるように、津波を弾き飛ばすような格好をしています。これに比べ大阪湾の入り口は津波を受け入れやすい形をしています。このためか、大阪はいつも必ず津波でやられます。この地形を見るとよくわかります。

12 月 23 日の東海地震の翌日 24 日に南海地震、32 時間差で東海地震と南海地震が起きましたが、南海地震のとき、いろいろなことがありました。例えば和歌山の広村というところの『稲むらの火』という物語があります。皆さんの中で読んだことがある人、手を挙げてみてください。SBS さん、MBC さん、2 局しか勉強していない。TBS さんは防災担当の方ですから勉強しているのは当たり前ですが、残念ながら 3 人しかいない。これが結局 JNN 系列の実力であるということもわかります。だって、3.11 以降、とても話題になった津波の物語の『稲むらの火』を読んでいないなんて変です。

戦前の人たちはこの物語を全員勉強していました。尋常小学校の国語の教科書巻十、5 年生の後期に『稲むらの火』を勉強していました。これ以上は言いませんので、皆さん今日必ず家に帰ってから『稲むらの火』をホームページで勉強してください。和歌山を襲った津波の様子が描かれています。

安政南海地震では、実は大阪もやられました。大阪の大地震大津波細見一覧と書いてあります。青色の字が津波でやられたところで、梅田、道頓堀、難波であります。ここに津波の石碑、両川口津波記石碑が建っています。1854 年 12 月 24 日に大阪を襲った津波の様子です。次も大阪は津波でやられる可能性が高いです。昭和の南海地震のときだけ小粒だったのでやられなかったようですが、残りの南海地震ではいつもやられています。

拡大してみると、こんなふうになっています。中之島です。川と川に挟まれているから中之島。中之島のど真ん中に超高層ビルで電気をつくっている会社の本社があります。同じく津波でやられる御堂筋沿いにガスをつくっている会社の本社があります。そして、この中之島に、なんと市役所までつくってしまっています。せっかく高台にあった大阪府本庁舎を海の中に移動するなんていうことを橋下さんは決断され、超高層ビルの中に大阪府本庁舎を移そうとされました。

MBS さんも、茶屋町でダメです。具合悪いです。これは 8 月 29 日に予測した津波浸水地域の結果です。大阪と名古屋の津波で浸かる場所が示してあります。名古屋が津波でやられる場所はここの予定です。栄、名古屋駅は大丈夫ですが、梅田、難波は津波に浸かりそうです。どうしてこういう街ができてしまったかは後で申し上げます。今日、僕の話は名古屋自慢になります。

東海地震と南海地震が 32 時間の差で起きたことを申し上げましたが、このあとにさらにもう 1 つ地震が起きます。2 日後に豊予海峡地震が起きています。宮崎と四国の間で起きました。マグニチュード 8 クラスの地震が 12 月 23 日、24 日、26 日と 3 つ起きました。この 3 つの地震で江戸から西側の太平洋岸みんなやられちゃいました。そのとき、あまりやられ

なかったのが薩摩と長州です。

翌年、江戸直下の地震が起きます。江戸直下の地震でめちゃくちゃやられたのが日比谷の入り江を埋め立てた場所にあった大名屋敷です。今で言うと大手町、丸の内、有楽町、日比谷、新橋です。今の日本の中心地にあたります。大池という池を埋め立てた場所に水戸藩の江戸屋敷がありました。良く揺れて建物が壊れました。それで藤田東湖が死にました。尊皇攘夷派が力を失い始め、そして紀尾井町というとてもいい地盤の上にあった井伊直弼の時代へと変わり始めていきます。これが尊皇攘夷派から開国派へと時代が移るきっかけになった地震であります。

さらに翌年、9月23日だと思いますが、大暴風雨が江戸を襲います。一説では10万人が死んだとも言われています。あまり定かではありません。そのときにやられた場所を見ると、芝、築地、永代橋、吉原、低地は使っちゃダメだということがわかります。こういった事が江戸末期に起きます。

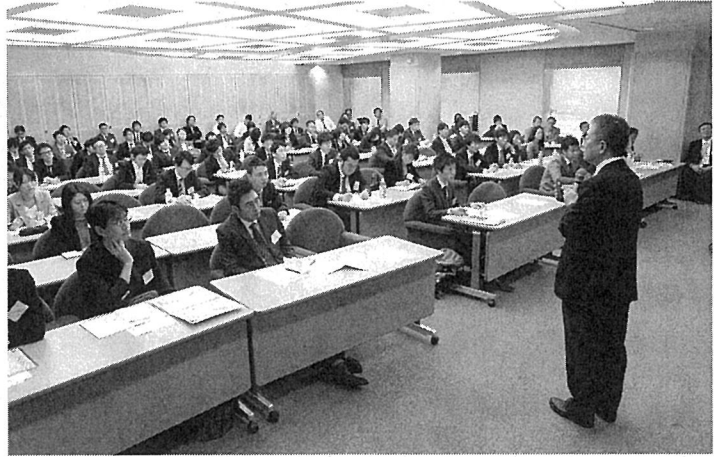
1853年までは、ばらばらとしか地震が起きていなかったのが、1853年から立て続けに災害が起きます。小田原で地震が起き、ペリーがやってきて日米和親条約を締結し、三重の伊賀上野で地震が起き、東海地震が起き、南海地震が起き、豊予海峡地震が起きる。たった4日間で。翌年、陸前で地震が起き、江戸直下で地震が起き、翌年、三陸で地震が起き、大暴風雨がやってきて、さらに伊予と安芸がやられ、飛騨と越中がやられる。これで今日ここにいらっしゃる放送局の方々のどれだけがやられているかがわかるわけです。たった4年の間で。やられていない放送局はどれだけあるでしょうか。東北もやられている、江戸から西は全部やられている、四国もやられている、中国地方もやられている、飛騨も越中もですから、富山のほうまでやられているわけです。生き残ったのは北海道だけです。北海道1社で全部やらなくちゃいけないんです。

これは2回前の地震群です。今、僕たちの目の前にあることはこういうことなんです。これだけ災害が起きてしまって、そしてコレラまで大流行したから、一気に幕末へと向かいます。龍馬たちが出てきたのは、安政の大獄事件のころからです。社会が大混乱したから若者が出てきたということが見えてまいります。

そして明治に入り、最初にやってきたのが濃尾地震、美濃と尾張を襲った「身の終わり」地震です。7,000人ぐらいが死にました。このとき日本の人口は4,000万人弱ですから、今からすると2万人以上になります。それが日本のど真ん中で起きたわけです。この地震のほうが、今回の東日本大震災よりもはるかに日本にとってダメージが大きかったことがよくわかります。すなわち東日本大震災クラスの被害は、日本ではときどき起きているということです。この5年後、1896年、日清戦争を挟んで明治三陸地震津波がやってきました。今回の被災地と同じ場所です。2万2,000人が命を落としました。今回の犠牲者1万9,000人、3,000人も多い。当時の日本の人口は4,000万人、今に換算すると7万人ぐらい死んでいる災害になります。地震の大きさは今回の地震より小粒です。でも、今で言えば7万人ぐらい命を落としていることになります。

当時の人たちは、こんなむごたらしい絵を残してくれました。だから、次の世代に津波の怖さを伝えることができました。でも、今のメディアはこういうむごたらしい映像は、国民の目にさらしません。だから津波が怖いって感じません。こういう絵を残すことができた地

域では明治には1万8,000人だった死者を今回6,000人に減らしました。ちょっと言いにくいんですが、お隣の県では3倍以上増えちゃいました。こっちは「津波てんでんこ」という言葉も伝え、徹底的な津波防災教育をしていました。



何だかとても変です。僕たちは今回の災害のことを、いまだかつてない未曾有の災害なんて言っています。

この場所では歴史上、何度も同じことが繰り返し起こっていて、今回は今までと比べると随分被害が少ないんです。なのに未曾有なんていう言葉を使うことは、おかしいことだと思います。人口が3倍に増えているのに、被害は3分の1になった。岩手の人たちは死者を10分の1くらいに減らしたんです。めちゃくちゃ頑張ったんです。逆に言えば、宮城の方々は人口が3倍に増えているわけですから、犠牲者は3倍になったので、昔と同じというふうにも見えてまいります。

次は、仙台での講演会場の様子が残されていた映像を見てください。頭のいい人たちが集まっている会議です。頭がよくなると行動を阻害するかもしれないと思って見てください。震源から170キロもありますから、揺れが伝わるのには時間がかかりますし、揺れは随分小さくなってからここに伝わります。ここで緊急地震速報が入ります。でも、大学の先生方、誰も行動しないんです。こんなにすばらしい情報が入っても、それを活用できるだけの力が人間に備わっていないんです。そして今、縦揺れが先にやってきて、その後とてもすごい横揺れがやってきて、シャンデリアがゆっさゆっさします。何で今後30年間で99%の確率で地震が来るとわかっていたのにシャンデリアの固定すらしていないんでしょうか。何だか僕たちは、口ばかりで、全然行動していないということが見えてまいります。

こんな話を今、名古屋のホテルでよくしています。そうすると、名古屋資本のホテルはシャンデリアを撤去してくれたり、あるいは固定したりしてくれています。でも残念ながら、東京資本と大阪資本のホテルはいくら言っても何も変えてくれないんです。不思議なものです。でもシャンデリアは強く揺れれば落ちます、こんなに揺れたらどうなるでしょう。この部屋はいいですね、上につり物がありませんから。

次は、テレビはどんなふうに伝えたかというものです。ウェザーニュースとNHKだけがすぐに緊急地震速報を報じることができました。残りの民放キー局は残念ながら、関東地方は震度5弱以上の揺れが予想されていなかったのも、何も情報が出なかったという状況にあります。ウェザーニュースの人は訓練をあまりしていないので、どぎまぎしていて、アナウンサーはなかなかしゃべれないんです。NHKさんはすぐにしゃべり続けていました。震度5弱、マグニチュード7.7、こんなに過小評価していました。実際には震度7、マグニチュード9.0となりました。ウェザーニュースはなかなか立派で、同心円上に揺れが伝わる様子を伝えていました。これがちょうど東京に伝わった瞬間（国会中継映像）、彼女がキョトンという顔をします。彼女は今、揺れを感じました。緊急地震速報は非常に正しい時刻を予

報していたことがわかります。そしてこの人たち、みんな上を見始めていてシャンデリアが揺れ始めている様子がわかります。予算委員会をやっている部屋は、残念ながらシャンデリアの固定すらしていなかった。予算委員会は緊急地震速報が報じられていたのに、何事もないうように続けていた。ここにいるのが菅さんです。全然反応しませんでした。だからその後、あまりうまく動けなかった理由も何となく想像ができてきます。

NHKはすぐにスタジオに番組を切り替えました。日テレだけは石原さんの記者発表を伝えるべく中継をつなげましたが、すぐCMに戻してしまいました。もったいないことです。TBSさんはなかなか立派で、この時点でCM中だったんですが、ちゃんと震度速報を流しました。テレ朝は遅れました。でも一応は伝えました。フジはダメだったんです。

今ここで東京に揺れが伝わり始めています。これは幕張の揺れの音です。そのガサガサという音がしたちょっと後で東京がこのぐらい揺れ始めて、これは新宿の様子です。新宿が揺れている最中に震度7という情報が入ります。震度7という情報は、まだ東京が揺れている最中に報じられました。日本がすごい国だということがわかります。揺れる前に緊急地震速報が入り、揺れている最中に震度7がわかりました。残念ながら、一番大事な時間に民放は全部CMだったんです。これはやっぱり具合が悪くて、それなりに僕たち受信料を払い続けないといけないことが何となくこれで感じます。一番大切な大津波警報を出したのはNHKだけだったんです。

これはどうすればいいんだろうか、やっぱり考えさせられました。でも、さすがTBSさんです。一番揺れない場所の赤坂の上で、かつスタジオが、報道の方々が下のほうの階にいらっしゃったおかげもあってか、最初にスタジオというか、アナウンサーの方がしゃべられたのはTBSさんです。しかも、とても冷静。ここは、まだ天井が揺れているので、あたふたされています。さらにこの局は、なぜヘルメットが必要か、皆さん想像してみてください。後ろのあたふたの様子、上から物が降ってきたからです。同じ業界でも、このぐらい差があるんだということを見ていただきたいと思います。

なぜそんなことになったのか、とりあえず各局の外観写真を撮ってきました。NHKは低層部分で放送していたからよかったわけです。高層部分だったら最悪です。TBSも低層階だったからよかったわけです。ここはこんな建物で、スタジオは上層階にあるんです。その差が今、如実に表れていました。結局、放送局はどういう場所にあるかが大事だということが見えてきました。

ついでに、今のがキー局で、大阪局と名古屋局も見ってみました。NHKは全部超高層にしています。ただ、放送は低層階で出しているのだから、多分生きるとは思います。これがMBSさんで、これがCBCさんです。CBCさんの昭和レトロが大事です。お金がないからなのかもしれませんが、低い建物は揺れにくいんです。本当に昭和レトロで、日本で最初の民放放送会社だけあって、ものすごくスタジオの壁が厚いんです。遮音のために。だから上が壊れても、放送を出しているあのスタジオだけは残るんです。だから建て替えないでほしいんです。必ず登録文化財になりますから。あと10年残せば文化財だと思います。行ってみると、こんなに分厚い扉なんです。そういう放送設備は、日本ではほとんど残っていないので、今日お願いしたいのはTBS系列全体で一番昭和レトロを残すようなCBCの本社建物は、最後までつぶさずに残してほしいということです。

でも、TBSさんも進化しているんです。僕が2005年に初めてTBSさんで使われたときに地震特番のスタッフルームを写した様子です。地震特番スタッフが何も固定されていない棚の前でこんなふうに通っていたらいいなと思っていました。でも、この写真の様子は今やこんなふうに進化してきました。見ていただいてわかるように、ちゃんと固定されるようになりました。本気になってきたということがわかります。

今度は横浜の関内の映像です。関内はどうも仙台より揺れたようであります。これは九段会館です。こんなふう天井が落ちました。何でこんなに揺れたのか。1923年、関東地震のときの関内です。ここだけ建物全壊率80%以上です。お隣は0%です。どうしてか。ここは江戸以降、埋め立ててきた場所だからなんです。さっきの横浜球場はここにあります。横浜市役所もここにあります。つくっちゃいけないところに横浜市役所はあります。めちゃくちゃ具合が悪いです。

今の場所がどこかという、ここが関内です。まずいですよね。保土ヶ谷もダメです。いっぱい谷があります。こういう谷は住んではダメです。昔から絶対に住んではダメという場所は尾の瀬、谷の口、それからさんずいがつくところ。谷の口というのは谷の出口です。そういう場所が仙台でことごとくやられました。地すべりです。仙台市郊外の丘陵地の宅地造成地、谷を埋めた盛土の宅地造成地、おしなべて、地すべりでやられました。これからやってくる東海・東南海・南海でもやられます。長い間揺れ続けると地すべりを起こします。かつての日本では、住んでいい場所といけな場所はちゃんと区別してきていました。

もう一度、横浜市内の映像です。本当にさっき見ていただかなかない場所でした。これも関内です。(看板が落下する映像)これがどうして起きたかということは今申し上げたとおりです。

同じようなことが東京でも起きていました。先ほどの九段会館の場所はここなんです。これは江戸時代の地図です。九段会館のあった場所だけが池だったんです。その場所は、もともとの川沿い、平川です。水戸藩の江戸屋敷があったところです。ちょっと言いにくいんですが、ここにあるのがCBCさんの東京事務所です。つくっちゃいけないところにつくってあります。

やられる場所はいつも同じです。これが関東地震のときにやられた場所です。水道橋、大手町、丸の内、有楽町、日比谷、新橋、そして溜池。これが安政江戸地震でやられた場所です。これが元禄関東地震でやられた場所です。いつも同じ場所がやられるんです。

一番ダメな場所に皆さん、昨日見学に行ってきたんです。こんなところにデジタルタワーを建てるなんて、大丈夫でしょうか。関東一円に放送を出している一番大事なものをどうして一番危険なところにつくるんでしょうか。それを観光資源にしようなんていうのは、ちょっと変です。それに比べ、我がケチケチ名古屋民はどうしたかという、観光資源には全然ならない山の上にデジタルタワーをつくりました。値段はすごく安い。揺れない丘の上、もともと高さがあるので建物をあまり高くしなくてよいから、低めのデジタルタワーをつくりました。これが昭和レトロのケチケチ名古屋と、先端に行く東京との違いというふうに見えてまいります。

今度は首都高速道路です。首都高速道路はこんなに揺れてしまいました。何でこんなに揺れちゃうか、単純です。川の中とかお濠の中、一番揺れる場所に一本柱で柱を建てているか

らだと思います。

次は浦安の液状化の様子です。記者さんの声ですよ。記者さんがここをヤバイと感じられる、そういう状況だったことが感じられます。液状化をした場所では、こういうふうに乗が通れなくなってしまいます。だから、液状化する場所は使っちゃダメです。

今のようなことは、どういうふうにしてきたかということからわかります。これは1万年前の東京です。当時の貝塚のあるところ。白いところは良い場所です。そうじゃない場所は使わないほうがいいです。左が、太田道灌が江戸城をつくった頃の地図です。日比谷の入り江が入り込んでいます。これで徐々にいろんなことが見えてきます。今のようなことの大事さを教えてくれたのが東北地方太平洋沖地震で、そのときの被害はこんな感じ。もうちょっとみんなしっかりと逃げていたら、多分死者は数千人ぐらいに減ったと思います。

東日本大震災の被害は阪神・淡路大震災とあまり変わらないこともわかります。右と左と比べていただいて、今回のほうが死者と行方不明者は多いですが、残りを比べると、あまり変わらないんです。ですが、メディアでは今回の災害が桁違いという言い方をしています。これは随分ミスリーディングのようにも感じます。あまり被害が変わらない一番の大きな理由は、兵庫県の人口が560万人、東北3県の人口が230 + 200 + 130でちょうど560万人、兵庫県と全く人口が変わらない。すなわち被害を受ける側の人数が変わらないので、いくら敵が1,000倍強くても被害は変わらなかったというふうに見ていくんだと思います。それに比べ、首都直下地震が起きると東京・神奈川だけで2,200万人住んでいるわけです。4~5倍の災害になります。特にこの地区の人たちはあまり備えていないので、5倍では済まないかもしれません。

1923年関東地震のときは500万人です。そのときに10万人が命を落とし、国家予算の3倍の金を失って戦争に突入したわけですから、これと比べて2,200万人住んでいるというのはどういう意味なのか考えておく必要があります。つくっちゃいけない大きさの街をつくっちゃったように思います。

もう1個大変なのが東海・東南海・南海地震です。被災者は東北地方太平洋沖地震の10倍ぐらいいます。だから被害は10倍と簡単に見積もることができます。

今回と同じような災害が1150年前にありました。貞観地震です。この地震の前後に、こんなにいろいろな地震が起きました。越中・越後地震、富士山噴火、阿蘇山噴火、応天門の変が起きて、阿蘇が噴火し、疫病が蔓延。播磨・山城で地震が起きて、貞観地震。あまりにも大変だったので、ご祈祷をした、それが祇園祭の発祥となります。そして地震の後、鳥海山が噴火し、開聞岳が噴火し、関東で大地震が起きて、出雲で地震、再び開聞岳が噴火し、千葉・安房国で地震が起きて、東海・東南海・南海地震が起きています。当時の地震の起き方と現代の地震の起き方を見ると、よく似ていることに気がつきます。確かに中越・中越沖地震が起きていますし、神戸の地震が起きているし、東北の地震が起きたし、新燃岳が噴火したし、鳥取県西部地震も起きました。今とっても心配されているのが富士の噴火と首都直下の地震と千葉沖の地震と東海・東南海・南海地震。歴史から考えれば、まだまだこれからかなとも感じられます。そして、1150年前にはここで大きな地震が起きたら、その前後、4つの火山が噴火いたしました。阿蘇と開聞岳と富士と鳥海山。今も日本中、何が起きてても

おかしくない状況になっていることがわかってまいります。今、私たちの時代で噴火したのは霧島の新燃岳だけです。いま、阿蘇山も噴火直前になっています。つい最近、このあたり（鳥海山）で地震が起きているのも確かです。ですから、富士も含め、いろいろ心配されているようです。

そんなことがわかっているのに、なぜ富士山の東側に人やモノがどんどん集まるのかということであります。昨日は、皆さん、スカイツリーから富士と夕焼けをごらんになったようですが、富士の東側のスカイツリーから富士山を眺めなくても、西側から眺めればいいのと思うんですけれども、夕日は東から見たほうがきれいなので、仕方がないでしょうか（笑）。スカイツリーはモニュメントとして残しておいて、皆さんは東から西に移ってきたほうがよさそうですね。

こんなふうに日本の人口は増えてきました。貞観地震は、今の20分の1しか人口がいなかったときにやってきました。現在はこんな状況になりました。その間、私たちの海の目の前で、東海・東南海・南海地震がこんなタイミングでやってきています。戦争を終わらせた地震（1944年）、お江戸を終わらせた地震（1854年）、元禄を終わらせた地震（1707年）、安土桃山から江戸になったときの地震（1605年）です。この地震（1498年）ではとてもひどい津波がやってきました。明応の地震と言いますが、東海地震だけで4万1,000人死んでいます。当時の日本の人口は1,000万人です。12.7倍すれば50万人ということになります。東海地震だけで50万人。とすると、さっき言った100万という数字が全然おかしくないことも感じられてまいります。これから地震が来る時代、どうなるかということ、こんなふうに人口分布が変わってまいります。

今日いらっしゃる年代の方々、これとお付き合いしないといけない年代の方々です。まだ現役の時期です。人口3分の2です。若者がいないんです。来年早々には第2次の被害想定結果が出てくると思いますが、東海・東南海・南海地震の経済被害、数百兆円が出てくるかもしれません。首都直下もあります。そうすると日本の借金1,000兆円分ぐらいが2つの地震で出てしまうかもしれない。でも、ちょっと考えれば当たり前のことで、人がたくさん住んでいるところを強い揺れが襲い、津波が襲えば、そうなる可能性があるわけです。

皆さんはこういった巨大災害のときに、家族を守った上でちゃんと報道の仕事をしたくないんです。ご自宅は、家具の転倒防止はしてありますか？（何もしていません。）どこですか？（富山です。）バカって言われます。メディアの人間ですよ。地震特番つくりますよね、時々。自分がやっていないくせに視聴者の人たちに地震防災が大事だという番組を作っていると言うことは人をだましてることになります。

どうやって東京、大阪、名古屋、仙台の骨格ができたかを見てみます。4回前の南海トラフ巨大地震のときに4つのまちが作られました。大阪では1583年に城をつくりました。本能寺の変の翌年、秀吉がつくりました。いっぱい地震が起きた後、江戸がつくられました。東海・東南海・南海地震が起きた後、名古屋がつくられ、そして三陸の地震が起きた後、仙台がつくられました。まだ地震が来る前につくった大阪は、石山本願寺城の跡地に秀吉が城を構えました。どうしてここがいいか、周りが湿地帯で、周辺からの攻め手がなくて、南からしか攻められないので、戦乱の時代ここがベストだったことになります。

なぜ浪速と言うか、皆さんご存じでしょうか。MBSさんご存じですか。（波が速い。）う



ん、波が速い。どうして波が速いかと言うと、こっち（台地の東）は河内の海だったんです。西は大阪の海で、台地の北は海でつながっていたんです。潮が満ち引きするときにすごいスピードで波が移動したんです。右から左へ、左から右へ。だから浪速なんです。どうして中之島と言うか、川と川の間だから。どうして梅田と言うか、田んぼを埋めたから。

だから八百八橋、水の都なわけです。青いところはものすごい低地です。平和な時代になったあと、この低地に街を作りました。だから津波で何度もやられる街になったわけです。でも、そのことを関西の人たちは意外と忘れてます。

その後、天正の大地震がやってきて、中部地区のお城がいっぱい壊れました。木舟城は知っていますか（富山の人に聞く）。知らないですか。越中にあったんです。前田利家の弟がいた城ですが、つぶれました。滋賀の長浜城、つぶれました。岐阜の大垣城、三重の長島城、愛知の岡崎城、つぶれました。これが戦乱の時代を大きく変えた地震です。

そしてその後、朝鮮に出兵します。戻ってきて9月1日に慶長・伊予地震、四国がやられ、9月4日に慶長・豊後地震、九州がやられ、翌日9月5日、伏見地震がやってきて、伏見城が壊れます。このときは1週間で神戸級の地震が3つ起きたそうであります。伏見地震のときに蟄居処分を解かれたのが加藤清正です。秀吉の身を案じて助けにいったから蟄居処分が許されました。その加藤清正が大活躍したのが翌年の慶長の役です。虎退治。翌年、秀吉が死んで、みんな日本に戻ってきて、関ヶ原の戦いで大げんかをして、そして家康が勝って江戸をつくります。江戸はここに城を構えます。これだけ災害を経験したので、味方は西側の台地の上に住ませます。東側は日比谷の入り江があったので攻め手はありません。お濠の中で唯一の陸橋は半蔵門です。落ちないように陸でできた、土でできた橋です。そこから甲州街道を一気に甲府に逃げるという形で、尾根筋に道をつくり、服部半蔵たちに両側を守られながら、上から矢が射られないようにして脱出の道をつくったということの家康はしたわけです。

江戸の開府をした後、大名たちに命じて神田の山を削り取って日比谷の入り江を埋め立て工事させて、そこに大名屋敷をつくれと指示をしました。その大名屋敷はとても軟らかい、よく揺れる地盤で、元禄の関東地震、安政の江戸地震で見事に壊れていきました。壊れた敷地を明治政府は練兵場にしました。その南端に官庁街をつくらうとしたんですが、あまりに地盤が軟弱で、当時の建設技術では建物がつくれなくて、諦めてできたのが日比谷公園です。ギリギリで建物をつくるのができたのが法務省のあの赤レンガの建物です。あそこよりも東側は使っちゃダメな場所です。その後、明治政府は金に困って岩崎弥太郎に土地を買ってもらいました。だから三菱村ができました。そこにバリューエンジニアリングだと言って耐震基準ギリギリの超高層ビルをいっぱいつくっているかもしれないということになります。ゾツとしてきます。

その後、慶長の地震津波がやってきました。この地震津波で太平洋岸が洗われちゃったので、それを避けるようにしてつくったのが東海道五十三次で、見事に丘の上を通したわけです。津波対策です。だけど現代人は忘れちゃったので、海側に道路や鉄道を通しました。それを反省して、第2東名は山側を通しています。その後でつくったのが、また名古屋自慢になります。名古屋なんです。清洲という水害危険度の高いところに城があったんですが、これじゃ大阪の見張りができないといって震災前に高台移転、熱田台地に城下を移しました。徳川の威信を見せつけるために名古屋城をつくったわけです。先日の『ヒストリア』でやっていた話になります。高台の東と南に寺町をつくり、西に堀川をつくり、北の崖で守ったわけです。おかげでこの街は、その後の3つの巨大地震でほとんど被害が出ていないんです。だけど明治になって、鉄道を通すときに、木造住宅だらけのところに蒸気機関車を通すと燃えてしまうので、それを避けて湿地帯に鉄道を通してしまって、ここに駅をつくってしまったんです。芦原を埋めて。だから、名古屋の老舗企業はみんな丘のほうにいて、新参の会社は名古屋駅周辺に本社を構えるという、すごくおもしろい対比ができてきました。

CBCさんはちゃんとここにあるから大丈夫だと思います。

その後、今度は慶長の三陸地震津波が仙台を襲って、伊達政宗は復興するときに高台に移転しないとダメだと考えて、河岸段丘状に街をつくったので、だから仙「台」と言います。そして奥州街道は内陸側を通したので、今回、盛岡も一関も無事だったということになるわけです。これが1万9,000人の犠牲者で済んだ一番大きな理由だと思います。これが4回前の地震のシリーズで、このときに日本の主要な都市がつくられたことになります。

今度は3回前です。1703年に元禄の関東地震がやってきて、4年後に東海・東南海・南海地震、10月28日にやってきて、49日後に富士が噴火しました。それを立て直したのが新井白石とか徳川吉宗になります。先日の『ヒストリア』で何ゆえ徳川吉宗と徳川宗春が大げんかをしたかということ、ちょっと突っ込み不足だったと思いますが、吉宗は宝永地震のときに紀州藩主でした。立て直しに頑張ったので、それが認められて江戸に行っていると思います。質素儉約で立て直そうとしました。一方で、被災地・尾張の宗春は、名古屋を復興させるには豊かな街にしないとイケない、だから祭りをいっぱいするような絢爛豪華な政策ように想像されます。その後、大げんかをして宗春が負けちゃったということになります。

そういうことを思いながら、東京・大阪・名古屋でメディアの本拠地の場所がどう違うか。新聞社は駄目なところばかりです。テレビ局については、名古屋はいい場所、東京はそこそこいい場所、大阪はダメな場所、とわかります。これはNHKの大阪局、上町断層上や青色のところに、どことは言いませんがテレビ局があります。こっちが名古屋です。名古屋のテレビ局を見ていただいて、全部いい場所にいることがわかります。

東京新聞と中日新聞の防災に関する記事の数を比べてみました。中日新聞は青色の数、防災の記事を出しています。東京新聞は赤色の数です。東京の新聞社の中では東京新聞が一番防災の記事を出していると思いますが、それにしても名古屋の記事数と東京の記事数では全く違う。これを中日新聞と静岡新聞と比べるとまた格段に違います。静岡が岩手だとすると名古屋が宮城、名古屋が岩手だとすると東京が宮城、東京が岩手だとすると大阪が宮城、そんなふうに地域間格差が見えてくることになります。

そう思いながら、電力会社の場所も見てください。東と西の電力会社の本社、超高層ビル

でここにある。真ん中は昭和レトロでここにある。3大都市を比較すると、あらゆる面でそうなっているわけです。不思議です。

木造密集でいざというときに守れない場所ということで国土交通省が今月出したものです。赤色の場所、燃えてしまう可能性が極めて高いところですよ。この近くにメディアの本拠地があると非常に具合が悪いことになります。

次が明治以降の地震群です。明治以降の歴史の中に地震を入れてみるとどうなるか、関東大震災がきっかけで戦争に突入していったことが見事に見えてまいります。ドンドンと来て金融恐慌、ドンと来て満州事変、ドンと来て5・15、ドンと来て2・26で、ドンドンと来て太平洋戦争で、鳥取地震が来て、海側の島々がやられて、とうとう東南海地震が起きちゃいました。これで日本の軍需産業のほとんどが集中していた名古屋がやられ、そして軍需産業がやられました。この日、欧米の新聞では「連合国の勝利間違いなし」と出ています。だけど、この地震のことは、残念ながら我が国では情報統制をして国民に全然知らされませんでした。翌月、三河地震が起きて、とうとう敗戦。翌年、南海地震が来て、福井地震が来た。どうしようもなくなったところで朝鮮戦争がやってきて、再び豊かになったという歴史が見えてきます。

今、僕たちがどの辺にいるかということ、多分この辺（第一次世界大戦）にいるはずですよ。大体このぐらいの地震を経験したことになります。そのぐらいの地震ってどれなのかというと、平成以降に起きたのはこのぐらいあります。こんなにいっぱい地震があったのに、皆様、家具を止めずにいたって不思議だと思いませんか。他人事だったということになります。これを見ると、ただごとではないように思えてきます。そして具合が悪いことに、関東での地震、南海トラフの地震、富士の噴火、三陸の地震が全部来ちゃうときが時々あります。先ほどの貞観の時代は、関東地震も来たし、東海・東南海・南海地震も来たし、富士も噴火し、東北も大変な津波に襲われた。

そう見てくると、300～400年おきぐらいにありそうだなっていうふうに見えてこなくもなく、次、何か心配かもしれないとも感じられてくるんですが、これ、あまり根拠がないんです。でも、そういうことだあってあり得ると思って災害報道をしているかどうかで、報道のスタンスは全然違ってきそうであります。

こういう時代に関東地震がやってきて、国が減んでいったわけです。でも、人口はこの程度だったんです。今、ここまで増やしちゃいました。どんなふうになったかということ、これだから1万9,000人だったんです。東京だったらどうなるか、推して知るべしで、そのことの実感を我々は持たないといけないように思います。

世界中でこんなに集めちゃったのは東京だけで、あとはみんな発展途上国です。先進国で人を集中させる国はありません。だって、人を集中させることが国家を破滅するわけですから。分散した国をつくっていかないといけないわけです。だから、何とかしてTBSさんの力を小さくして、ここにいらっしゃる方々の各局の力を大きくしていくことをしないと、国が安寧に保てないことにもなります。

江戸時代、こういう街だったわけです。（俯瞰図）なんとすごいことに江戸時代にスカイツリーの上に昇ったことを想像して絵を描いた人がいるということでもあります。そして、これが明治です。昨日皆さんがご覧になった景色はこれです。次の地震、何が起きそうかが見

えてくるわけです。飢死です。皆さん、独身の方だったら考えてみるといいと思います。独身でいらっしゃいますか。独り身ですか。1人で生活していますか。冷蔵庫の中に何が入っていますか。ビール以外。多分何もないんですね。この街にはそういう人が一杯居ます。でも食料を入れるのは大変そうです。数が多過ぎて、道路も止まっちゃう、鉄道も止まっちゃう。独身の男の独り身、これが一番危険です。パニックが起きるかもしれません。スカイツリーのある場所は水に浸かり、液状化もして、火も出そうです。昨日、そういうふうに関東を感じながら風景を見た方々と、単に、富士山がきれいだなと見た方と、多分昨日は2種類いらっしゃったはずだと思います。

これも怖い写真です。この田端の崖の下を毎日すごい数の人たちが通過しています。京浜東北線です。揺れると崖が崩れそうですね。家が落ちちゃいそうに見えます。この下に大事な鉄道が通っています。そう思ってこれを見てください。ここが鉄道の通っている場所です。現在の地図、明治の地図、江戸の地図、新橋から横浜まで、海の中に築堤をして通しました。そして崖の外、谷の中、鉄道を通したわけです。だから、こんな地名です。久保、谷、谷、谷、田んぼ、水、水、原っぱ、草、そして池、鴨、田んぼ、谷、野っ原、原っぱ、田んぼ、橋、浜、田んぼ、川、崎っぱ、田んぼ。

これが大きく揺れた場所です。標高が低いところを使っちゃダメということがわかります。一番よく揺れる場所に建っているのが気象庁と東京消防庁です。僕が住んじゃいけないと思う地名のバス停のある場所です。東証一部上場会社の本社です。赤色がゼネコンの本社です。このビルをつくった方の本社は多分これです。その人たちは意識はどうでしょう。ゼネコンはみんな危険なところに本社を構えているように見えます。建築設計事務所も同じです。でも、一番ダメなのは新聞社であることがわかります。新聞社は関西系が多いです。関東地震で東京の新聞社は駆逐されましたから、関東地震の怖さを感じていないのかもしれませんが。関東地震で一番やられたところに本社を構えています。テレビ局は大体その系列にありますね。そういう意味ではTBSさんはいい場所です。

これが日比谷の入り江を埋たところに建っている超高層ビル群で、社長さんたちはこの一番上の階にいます。何となく嫌な感じですが。一方で、これが江戸時代に描かれた浮世絵の場所です。ここから続く前島、いい場所です、銀座です。日比谷の入り江、こっちが武蔵野台地。当時はこんな風情で、随分安全なんです。このときに安政江戸地震が来て、江戸が終わっていったということでもあります。ひどくやられた場所が見えてきます。

今日はKKRに泊まっていたので、KKRの前で写真を1枚撮ってきました。危険な首都高、気象庁があり、東京消防庁があり、日経新聞があり、経団連があり、JAがあり、国税庁がある。これが今の真っ赤かだった場所になります。ということは、東京はとてもまずいということがわかるわけです。今日集まっている各社の方々は、東京キー局が機能不全になっても大丈夫のように、どれだけ自分たちでちゃんと自立してやっていけるようにしておくかということが大事です。

気象庁の一番大事な部屋です。完璧によくできています。でも、ここは完璧でよく見せびらかされるんですが、ここに下りていく課長さんがいる部屋はこんな状態です。地震津波監視課長と地震予知情報課長さんのいる部屋です。内開きの扉の両側に置いてある家具は倒れてしまいます。ということは、この扉はいざというときに開かないんです。当日はど

うしたんですかと言ったら、みんなで押さえました、TBSの映像とそっくりだったそうです。でも、とうとうつい最近こんなふうに変身しました。ぜひ皆さんの会社も、こういうふうに変身をしていただきたいということです。

今日はたくさん怖いことを申し上げましたので、皆さん、是非、防災のための行動を実践下さい。本当は、この後に、いじめ続けたおかげで変わったCBCさんの家具止めの写真をお見せしようかなと思ったんですが、これで終わります。以上です。(拍手)